

2020年11月9日

三鷹市民 安達 榮一

「大きなフジバカマ園」の企画（素案）

～絶滅が危惧される野川のフジバカマを育て、
長旅をする蝶（アサギマダラ）を呼ぼう～

- ①都内トップクラスのフジバカマ園を作ろう
- ②花に集まる多くの蝶の観察を楽しもう
- ③フジバカマの葉で、万葉の時代の香を再現しよう
- ④カワラナデシコなども育て、秋の七草を楽しもう
- ⑤昔の日本を学び、日本人の心の故郷を大切にしよう

三鷹市は、緑と水の公園都市計画を策定し、水と緑を大切にしたまち作りを進めています。フジバカマは、水辺に生育する貴重な植物です。三鷹市付近でも、30年ほど前までは国際基督教大学構内で生育していましたが、もう生育が確認されなくなりました。今ではフジバカマは絶滅が危惧される貴重な植物となってしまいました。東京都内でもまとまった規模でフジバカマが保全されているのは水元公園だけです。

2012年から野川の河川管理者である東京都北多摩南部建設事務所は、都民と協働して野川公園内の野川の法面に、約120㎡のフジバカマ保全区域をもうけ自生するフジバカマの保全を行っています。現在、少数のアサギマダラが、保全区域のフジバカマの花に吸蜜に訪れています。

上記の野川のフジバカマの種から苗を育てて、これまで、大沢コミセン花壇、星と森と絵本の家の花壇、野川の源泉である大池がある日立中央研究所の庭園、神代植物公園植物多様性センターなどに苗を植栽しています。いずれも小規模です。

本企画は、多くのアサギマダラを呼ぶことを目指して、大きなフジバカマ園を作ることです。そして多くの人々に新鮮な楽しみを与えることです。

秋の七草は、ハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウですが、花の綺麗なカワラナデシコは、7月～8月に花が楽しめ、フジバカマは9月～10月に花が楽しめます。

フジバカマの葉は、乾燥するとオルト・クマリン酸のいい香りがします。万葉の時代から「蘭」の香りして楽しまれて来ました。

京都ではフジバカプロジェクトが実行され、街中に鉢植えのフジバカマを沢山並べ、街行く人々に楽しんで頂いています。また、京都の西京・大原野のフジバカマ園（900㎡）と水尾のフジバカマ園（約1000㎡）にたくさんのフジバカマを育て、アサギマダラを呼びこんでいます。

フジバカマは花を咲かせるためには、何よりも「日照」を好みます。また水辺の植物で、日々の水

やりが大切です。三鷹市でも野川の水辺に近い大沢の地に、5年ぐらいの時間を掛けて、規模の大きいフジバカマ園を作り、訪れる人々が、日本の万葉の時代の歴史を感じながら、国分寺崖線の自然を楽しんで頂く日が来ることを願って、この企画を提案いたします。

参考資料

- 1) 根本正之他編集「在野野草による緑化ハンドブック」 朝倉書店 2020年5月
p 357 - p 360 安達榮一「野川のフジバカマを育てる」
- 2) 安達榮一 「鉢植えフジバカマ展示のふりかえり」 2020年11月
- 3) 安達榮一 「令和の香り」 2019年11月



野川のフジバカマ保全区域



フジバカマに来たアサギマダラ



匂い袋



カワラナデシコ